

論文 Article

大規模 EFL クラスのクラスマネジメント改善のための グループワークの応用

原稿受付 2015 年 5 月 15 日

ものつくり大学紀要 第 6 号 (2015) 8~12

金美紀^{*1}^{*1} ものつくり大学 建設学科非常勤講師

Application of group work for improving class management in a large sized EFL class

Miki KON^{*1}^{* 1} Dept. of Building Technologists, Institute of Technologists

Abstract

In an English class at Department of Building Technologists, one non-native English speaking teacher has over 100 students in a large lecture room. Many studies in recent EFL teaching show that providing group work activities as student-centered learning offers effective and collaborative learning environments. Even managing a large class as the student-centered class is problematic, this study tries to solve problems and to provide the students communicative and motivating learning.

Key Words : a large class, group work, a student-centered class, collaborative learning, class management

1. はじめに

ものつくり大学紀要第 5 号「建設学科における大規模クラスの英語授業にマルチメディア・ベースド・ティーチング手法を改善導入した効果に関するアクション・リサーチ」¹⁾では、習熟度の異なる 100 名以上の学生が大講義室で同時に受講するクラスにおいて、本学の充実した設備を利用し、教科書だけでなくマルチメディアを活用した様々な教材を導入して、学生の学習意欲と効果を向上させる改善を試み、大学の EFL (English as a Foreign Language) 大規模クラスにとって必要な環境作りに効果を得た。近年の日本の高等教育における英語授業では、習熟度別で少人数のクラス編成が効果的とされており²⁾、中でも、教員から学生への一方通行で行う講義型の授業から、学習者のコミュニケーション能力を向上させるための

学習者中心型の授業に移行する傾向がある³⁾。しかしながら、日本の大学においては少子化による様々な状況の変化に伴い、今後 100-200 名の大規模クラス編成が増える可能性がある⁴⁾と示唆する文献もあり、大規模クラスにおける効果的なクラスマネジメントは講師にとって引き続き大きな課題となっている。本小論は、本学建設学科における大規模クラスのクラスマネジメントにグループワークを応用し、大規模クラスでありながら学習者中心型の授業に改善し、受講者の学習意欲と効果を向上するための検証と考察である。

2. 建設学科の英語講義概要

2014 年度の建設学科の英語授業は主に 1 年生を対象とし、第 2Q~第 4Q までの 3 学期間、毎週水曜日の 3 限と 4 限に大規模教室にて行われた。

本研究のデータ対象となった第4Q開始時の履修登録者は167名、そのうち期末試験受験者は109名、グループワークに関するアンケートへの回答者は105名だった。講義内容は本学の理念にある「国際性の重視」に基づき、英語で「読む、書く、聞く、話す」力をバランスよく身につけるとともに企業が求める「コミュニケーション能力」³⁾を伸ばすことを目的としている。Appendix-1に1日分の講義タイムスケジュール例を記載する。

3. 学習者中心型クラス

講義型のクラスと学習者中心型のクラスの決定的な違いは、後者において学習者が授業内で多量にアウトプットができることである³⁾。講師の講義を一方向的に聴くのではなく、学習者同士が協力しあって課題に取り組む事により様々な学習効果が期待できるが、一部の学生は消極的になり協力することを楽しまないとも言われている⁵⁾。このグループによる協調学習の目的は、学力の向上のみならず、社会性や人間性を育むことであり、特にEFL学習では自らの英語力に自信を持ち、より快適な学習環境で積極性を身につけることが期待される⁶⁾。

4. グループワーク

4.1 グループワークの定義

グループワークは学習者の伝達能力を向上させるための手法のひとつでありEFL授業では徐々に適用されてきている⁷⁾。グループワークではクラス全体がいくつかのグループに分かれ、学習者同士が助け合って課題に取り組む⁷⁾。グループワークの長所は、知識の共有、創造性の刺激、ディスカッションによる学習内容の記憶の促進、学習成果に対する達成感、学習者同士の理解、社会生活に必要とされるチームワーク力の育成などである⁸⁾。一方、グループ内の意見が食い違った場合、大多数意見に対する圧力を感じたり、孤立する、または他のメンバーに依存し過ぎるなどの短所がある⁸⁾。

4.2 グループ分け

各学期の初回授業でグループ分けを行った。効果的なグループワークを行うためにはグループサイズが大きな要素となり⁸⁾、理想的な人数は3~6名である⁸⁾が、履修登録数の多さから6~10名とし、自由にグループを作ってもらった。その結果、2014年度第4Qでは最小4名、最大10名、多くのグループが8名の13グループに分かれ、任意のグループ名とグループリーダー1名を決定後、名簿を作成し講師に提出した。第2週の講義開始時にスライドを使用して各グループ名と第1週目のグループワーク課題のスコア順位発表を行った。

4.3 グループ課題用教材

課題は、3限は様々な教材、4限はTOEIC Bridge(R)リスニングした。第4Qの3限での使用教材は、EFLにおける知的アプローチとして⁹⁾洋画、洋楽、英国人講師による英語学習ビデオと、建設用語に関するクイズを選択した。ビデオ課題は、学生の異文化への興味を喚起し、リラックスした雰囲気でも効果的な学習効果を得られるように⁹⁾、学生に馴染みのあるものまたは世界的に有名なものを選択した。選択の基準としては、長さ、内容、分かり易さなどに留意した¹⁰⁾。建設用語の選択理由としては、グループワークには大きく分けて異種と同種グルーピングがあり⁷⁾、建設学科の場合習熟度は異なるが建築術を学ぶという共通の学習目標があるため、ある意味で同種グルーピングと認識でき、受講者全員に興味を喚起できる教材であると考えた。リスニングは通常個人課題として選択されるが⁵⁾、TOEIC Bridge(R)は愛知大学¹¹⁾など、大学入学時のクラス編成にも使用されているテストであり、また解答が選択肢のため正誤がはっきりしており採点を正確につけやすく学生にも結果が明確であること、実践的な会話学習に効果的な点で使用した。

4.4 グループ課題の実施方法

4.4.1 課題と採点

(1) ビデオ課題

ビデオ課題は、それぞれ課題のインストラクション後、ビデオを鑑賞し、ハンドアウトで課題

を行う。洋画は「ハリーポッター」シリーズのうち「ハリーポッターと賢者の石」¹²⁾の DVD を選択し、有名なシーンを英語字幕で視聴し日本語に訳す。洋楽は日本でも人気のあるグループ「One Direction」の「Story of my life」¹³⁾などを PV 視聴後、歌詞の一部を日本語訳する。英国人講師による英語学習ビデオは、YouTube の「MrDuncan」¹⁴⁾ シリーズを視聴後内容に関する質問に答えるなどである。グループは時間制限内に課題を協力して実施しハンドアウトを提出する。各課題 10 点満点とし、採点は講師が行う。文法や語彙の正確さだけでなく課題の協力的実施及びグループ毎のオリジナリティを重視した。

(2) TOEIC Bridge リスニング

TOEIC Bridge(R) のパート 2 を使用し、毎回 5 問ずつリスニング問題を聞き、選択肢を提出用紙に記入してグループ毎に提出する。採点は講師が行い、1 問 1 点とし最低 0 点、最高 5 点とする。

4.4.2 グループスコア順位発表

第 2 回目の授業から、授業開始時にスライドでグループ順位の発表を行った。グループ数が 13 と多かったため順位毎に 2 部リーグ制とし、各リーグの上位順位を競うだけでなく、毎週起こるリーグ間の入れ替えも楽しめるようにした。学期最終日に各リーグ上位グループの栄誉をクラス全体で称えた。クラス観察として、毎回順位発表時は関の声や嘆息、最終日は上位グループに対して好意的な賞賛の拍手や歓声が起こった。

5. アンケート結果の分析と考察

第 4Q 最終日の 2015 年 1 月 28 日に期末試験受験者 109 名に授業内容に関するアンケートを実施した。本研究ではそのうちグループワークに関するデータを集約、分析している。Appendix-2 にアンケートの内容と学生の回答・意見を掲載する。グループワークに対する学生の評価はアンケート回答者 105 名に対して、「効果的だった」が 54 名、「まあまあだった」が 48 名、「効果的でない」が 3 名だった。回答者全てに効果的な理由、グルー

プワークの問題点と、どのような時にやる気が起き、どのような時にやる気が失せるかを自由記入してもらった。効果的との回答理由は「順位がつくと頑張る」と答えたが学生が 24 名で、学習者中心型の効果として期待できる自主的な学習姿勢⁵⁾が見られた。「協力できた」が 22 名、「楽しい」が 9 名で、コミュニケーション自体を楽しむ事に英語を使う事⁵⁾ができていることがわかる。具体的なコメントとして「人の意見を聞ける」、「自分にはない知識が得られる」など、コミュニケーション力の向上³⁾にも効果が伺える。問題点としては、「やる人とやらない人に分かれる」が 11 名で、グループワークの短所が現れている⁸⁾。やる気が起きた要因は、「課題が面白いとやる気が起きた」という回答が 18 名あり、具体的には「自分たちなりに日本語訳するのが面白かった」「建築用語が学習できてためになった」などの意見があった。日本語訳は独創性が見られる回答を翌週にスライドで発表した。グループ回答の一例として、ハリーポッターの日本語訳課題中、友人ロンが列車の中でハリーと同じ座席に座ろうと「Excuse me, do you mind? Everywhere is full.」¹²⁾と尋ねる台詞を「ちょっと失礼。そこ空いてる？どこもリア充で一杯で。」と現代のネット用語を使って訳すなど、クラスに笑いや感動を与える訳が多かった。「他の学生から頼られた時にやる気が出た」という回答も複数あり、英語に対する自信の形成にも役立つと考えられる⁶⁾。一方、やる気がなくなるときは、「課題が難しい」が 22 名で一番多かった。特に TOEIC Bridge(R) は 5 問中 5 問不正解のグループもあり、レベルが混在しているクラスの共通課題難易度の設定の難しさを改めて感じた。次に多かったのがメンバーの非協力的態度である。また「周りがうるさい」という意見が 7 名あり、実際 TOEIC Bridge(R) リスニングを実施している間も会話を続ける学生がいた。「時間が足りない」という意見も少数だが聞かれ、特に量が多い課題や難しい問題の場合は、よくできるグループは早く終わり私語の原因となる。グループワークの適切なタイミング設定は難しく⁵⁾入念な授業準備が必要⁴⁾である。

6. まとめ

アンケート結果からもわかるように、大規模クラスにおいてもグループワークは学生にとって概ね効果的と受け止められ、学習者中心型の学習環境をある程度作る事ができたと言える。効果的なクラスマネジメントとしては、タスクを明確にし、グループ順位をつけることで、学習者の動機を上げ、学習者同士が意見交換を行う事により、社会生活に重要な協調性の向上も助長できた⁸⁾。しかしながら、グループ間の習熟度が大きい場合の課題の難易度設定や、より快適な学習環境を作る為のクラス内のルール作りなど、改善の余地は多い。Berk (2009) が課題にビデオを使用する場合の注意すべきステップを詳細に表しているように¹⁰⁾、すべての学生にとってすべきタスクがわかりやすい明確なインストラクションが重要である。学生達が活発に意見交換をしている大規模クラスは大変活力的で楽しげなものだが、リスニングの間は私語を禁ずる、グループワークの際は学生同士近くに座り大きな声で話さない⁴⁾などのルール作りも必要であろう。また Nevara and Greisamer (2012)が、授業中は携帯電話の電源は必ず切ることや、授業に熱心に参加することなどのルールを教室内に掲示しているように³⁾、大人数のクラス特有のマナー指導も必要と考えられる。さらに、大規模クラスは講師と個々の学生とのアクセスが限られるため、講師は休憩時間には教室内に留まり、できるだけ学生と会話をするように務めた³⁾。学習者中心型の授業においても講師と学生のラポールは大変重要である¹⁾。かつ、建設学科の英語授業では90分授業を続けて2コマ受講するため、学生の興味と集中力を持続できるような、バランスよくメリハリのあるタイムスケジュール作りが重要である³⁾。最後に、本研究の文献調査において、建設学科英語のグループワークは近年 EFL 研究で見られる CTBL (Competitive Team-Based Learning) 手法の一種ではないかと認識した¹⁵⁾。CTBL は2000年に開発された比較的新しい手法のため文献数が比較的少ないが、論理的基盤に関する論文もあるため¹⁶⁾ 今後の参考文献とし、建設学科の英語授業においてさらに効果的な学習環境の構築

に務めたい。

文 献

- 1) 金美紀：建設学科における大規模クラスの英語授業にマルチメディア・ベースド・ティーチング手法を改善導入した効果に関するアクション・リサーチ、ものづくり大学紀要第5号(2015) p.19-23.
- 2) 久野寛之：成人の外国語教育における少人数クラスの効果、北海道文教大学論集第10号(2009) p.75-84.
- 3) 加藤澄恵：英語コミュニケーション能力の向上を目指した学習者中心型の実践的考察、言語文化論叢第5号、千葉大学外国語センター(2011) p.57-68.
- 4) Nevara, J. and Greisamer, M. : Teaching to the Masses: Managing the Large Sized EFL Class, 神戸学院大学教育開発センタージャージャーナル第3号(2012) p.3-15.
- 5) Jones, L.: The student-Centered Classroom, Cambridge University Press (2007)
- 6) Al-Yaseen, W. S.: Cooperative Learning in the EFL Classroom, The 2014 WEI International Academic Conference Proceeding (2014) p.92-98.
- 7) Ibnian, S. S. K. : Group Work and Attitudes of Non-English Major Students towards Learning EFL, International Journal of Humanities and Social Science, Vol.2, No.4, Special Issue(2012)p.192-197.
- 8) Burke, A. : Group Work: How to Use Group Work Effectively, The Journal of Effective Teaching, Vol. 11, No.2 (2011)p.87-95.
- 9) Chlopek, Z. : The Intercultural Approach to EFL Teaching and Learning, English Teaching Forum, No.4 (2008) p.10-27.
- 10) Berk, R. A.:Multimedia Teaching with Video Clips:TV, Movies, Youtube, and mtvU in the College Classroom, International Journal of Technology in Teaching and Learning, 5(1) (2009)p.1-21.
- 11) 石原知英語：愛知大学名古屋校舎 2010 年度入学生の英語力の推移、愛知大学、言語と文化、No.25 (2011) p.1-16.
- 12) ハリー・ポッターと賢者の石 [DVD], ワーナー・ブラザーズ・ホームエンターテイメント, ASIN: B00KRTY2XU
- 13) One Direction: Story of My Life, available from : https://www.youtube.com/watch?v=W-TE_Ys4iwM
- 14) Learning English - Lesson One (Introduction) available from : <https://www.youtube.com/watch?v=ohJCdihPWqc>
- 15) Hosseini, S. M. H.: Competitive Team-Based Learning versus Group Investigation with Reference to the Language Proficiency of Iranian EFL Intermediate Students, International Journal of Instruction, January, Vol. 7, No.1(2014)
- 16) Hosseini, S. M. H: Theoretical Foundations of “Competitive Team-Based Learning”, English Language Teaching, Vol.3, No.3, September(2010)

Appendix-1 タイムスケジュール例

13:20-13:40	イントロダンクション・スライド (世界の国、建築物、料理などの紹介) 前回の講義内容質疑・応答 グループワーク順位発表
13:40-14:00	教科書「新・英作文ノート」 スライドを使用し文法を詳細に解説
14:00-14:30	グループワーク ビデオまたは建設用語課題 課題ハンドアウト提出
14:30-14:50	個人課題(3限の学習内容復習)→提出
14:50-15:00	休憩 (講師は在室し学生の質問などに応える)
15:00-15:10	発音練習
15:10-15:30	教科書「Making Friends 1」 リスニング、日常英会話練習
15:30-15:40	Native English speaking teacher による 文法項目別英語表現をビデオで学習
15:40-16:10	グループワーク TOEIC Bridge® Part 2 5問 課題ハンドアウト提出
16:10-16:30	個人課題(4限の学習内容復習)→提出

Appendix-2 アンケート結果と内容

Q.1 グループワークは効果的でしたか (選択肢)

①効果的だった 54名 ②まあまあだった 48名 ③効果的ではなかった 3名 無回答:4名

Q.2 どのようなところが効果的でしたか (自由記入)

順位がつくと頑張る 24名 協力できた 22名 楽しい 9名

【意見】 コミュニケーション重視の授業、自分のレベルがわかる、個人とは違う学習ができた、得意不得意をカバーできた、人に関心が持てるのはよい、など

Q3. どのような問題点を感じましたか (自由記入)

やる人とやらない人に分かれる 11名

【意見】 関わらなかった、個人の能力で左右される、順位をつけるのはよくない、仲間によってはやりづらい、など

Q4. どのようなときにやる気が起きましたか (自由記入)

課題が面白い(動画、訳、建築用語クイズ)18名 順位発表 17名 正解できた 15名
協力できた 10名

【意見】 メンバーから頼られた、課題が少ない、新たな知識を得た、など

Q5. どのようなときにやる気がなくなりましたか (自由記入)

課題が難しい 22名 メンバーが協力してくれない 12名 順位が下がった 9名
メンバーが授業に来ない 7名 周りがうるさい 7名

【意見】 興味がない課題、課題の量が多い、眠い、など